

令和7年度収支決算報告書

俳人協会群馬県支部
(令和7年1月1日～令和7年12月31日)

| 収入の部 | | | |
|------|----------------|---------|-------|
| 項目 | | 決算額 | 備考 |
| 繰越金 | | 416,403 | 前年度より |
| 会費 | 年会費82名 吟行会費19名 | 261,000 | |
| 収入合計 | | 677,403 | |

| 支出の部 | | | |
|-----------|-----------------|---------|----------|
| 項目 | | 決算額 | 備考 |
| 印刷費 | 会報 総会資料 各種案内等 | 14,867 | |
| 事務費 | コピーほか | 1,970 | |
| 雑費 | 俳句カレンダー | 14,700 | |
| 通信費 | 会報郵送 総会等案内状郵送ほか | 40,849 | |
| 消耗品 | 宛名ラベルほか | 4,762 | |
| 事業費 | 秋の吟行会 | 196,364 | |
| 支出合計 | | 273,512 | |
| 収入合計-支出合計 | | 403,891 | 次年度へ繰り越し |

令和8年1月 日
上記のとおりご報告いたします。
群馬県支部長 原田 清正 ㊞ 会計 吉藤 淳子 ㊞

【会計監査報告】
会計帳簿及び関係書類を監査した結果、適正かつ正確に処理していると認めました。
令和8年1月 日

監査 木下 涼薫 ㊞
監査 吉澤 章子 ㊞

令和8年度紙上総会 感染症予防対策

新型インフルエンザ警報が発令されるなど新型コロナをはじめ深刻な感染症が心配な状況が続いています。従いまして昨年同様集合型の総会を取り止め、会報「やまどり16号」に総会資料を掲載し報告させていただきます。

事業報告(事務局長・武藤洋一)
紙上総会(1月)
会報の発行(1月、7月)
県支部俳句大会(会報紙上)
秋の吟行会(11月)

やまどり

俳人協会
群馬県支部
☆
発行所
高崎市飯塚町737
TEL027-361-0870

令和8年度
紙上俳句大会開催

令和7年度群馬県支部俳句大会は感染拡大防止対策のため紙上俳句大会といたします。ご理解の上、皆様の奮ってのご参加をお願いいたします。

投句・ 3句(当季雑詠・未発表句)
締切・ 令和8年5月31日
投句料・ 無料
発表・ 会報「やまどり第17号」紙上
選者・ 未定
賞・ 上毛新聞社賞・支部長賞ほか
投句先・ 〒370-0069

高崎市飯塚町737原田方
俳人協会群馬県支部 あて
ハガキ裏面に俳句、氏名(ふりがな)住所、
電話番号を記載の上お申し込み下さい。

※ 一般の方の投句も可。
問い合わせ・TEL027-361-0870(原田)

会計報告(会計・吉藤淳子)

別掲報告書の通り

監査報告(監査・木下涼薫 吉澤章子)

別掲報告書の通り

予算案(会計・吉藤淳子)

【収入の部】

前年度繰越・403,391円
会費・80名×2,000円＝160,000円
収入合計・583,391円

【支出の部】

通信費・40,000円
印刷費・20,000円
会議費・10,000円
雑費・20,000円
事業費・200,000円

支出合計・270,000円

次年度へ繰越・313,391円

事業計画(事務局長・武藤洋一)

総会(紙上総会)

会報の発行(1月、7月)

県支部俳句大会(会報紙上)

秋季吟行会(日時、場所未定)

支部役員会(随時)

人事(支部長・原田清正) 前年度通り

明けましておめでとうございます
皆様のご健康をお祈り致します

令和八年元旦

俳人協会群馬県支部役員一同

秋の吟行会作品

(あいうえお順)

堂守の紅葉掃きをり草簾

大出 岩子

花鶏ちらちら木の葉時雨の宮の杜

落葉松の黄葉を四囲に電波塔

天明の絆いまなほ小六月

大塚 洋二

復顔図まじまじと見る神の留守

石路咲くや海原遠き小栗墓所

バス旅やトンネル出て紅葉山

金井きくよ

残り菊語り継がれし大噴火

ぶな黄葉舞ふや青空染めるかに

黄葉且つ散る天明のきざはしに

北村由美子

緋のいろに観音堂の大楓

豆柿のたわわ孀恋晴れ渡り

木下 涼薫

身に沁むや生死の分れ観音堂

墓碑語る非業の最後冬ざるる

散紅葉拾ひ句帳の栞とす

斎藤 博文

墓参ゆく小栗恋慕の落葉径

小栗墓の供華ひとつなし冬夕焼

佐野 愛子

バス旅や鹿と目の合ふ峠道

木の葉雨鳥立つやうな音を立て

小栗墓処もみぢ裏葉に真美あり

志水 美穂

飽くことのなきもみぢ狩りバス走る

駅舎跡の模型機関車枯すすき

正面の浅間山ともみぢ峠越え

谷 眞理子

新米のポン菓子給ふ旅はじめ

落葉松の落果をたぐるスニーカー

小栗公の墓域にひそと冬薔薇

火の山は色変へず立つ紅葉晴
枯れそめし紫苑や鎌原観音堂

紅葉踏み家族四人の七五三

小栗公孟宗竹の春中に

デザートやランチに栗の渋皮煮

何事ぞ落葉松かさを見つけたる

天明の魂なぐさむるもみぢかな

落葉松の松ぼっくりや噴火あと

小栗公の墓所へ誘ふ石路の花

岩櫃山きりと聳え風冴ゆる

冬ざるる鎌原に聞く和讃かな

空蟬の凍つるお堂を守り縋る

ぽん菓子を賜る秋のバス吟行

家苞のからまつぶくり吟行会

鎌原観音残る階冬ぬくし

あと一段及ばぬ無念紅葉散る

廃線の木造機関車枯木立

逆賊は誉れなりけり冬木の芽

錦秋の山やまあふぐバスの旅

天明の噴火遺跡に小菊咲く

落葉松の黄葉に透ける空たかし

江戸湾へ浅間噴火やそぞろ寒

新米の爆弾あられ懐かしむ

鎌原観音堂柱にぼつり空蟬が

身にしむや堂守の説くやけ遺跡

天明の堂のきざはしもみづれり

今朝秋の噴煙上がる火山灰の道

身に入むや小栗家紋の浪立てり

いろは楓埋れし階に散りつる

返り花浅間に傾ぐ供養塔

原田 清正

深谷 信郎

深谷 征子

真塩えいこ

宮崎至夏子

武藤 洋一

弥城勢津子

吉藤 青楊

吉藤 淳子

吉村 姉羽

浅間北麓吟行記

北村由美子

日 俳人協会群馬支部の今年、十一月半ばの日曜
 朝 九時に東京より五名の参加者を迎え、十九名で行なわれた。
 秋 晴れの日に、橋前を中、型バスに乗り込み、女性達は後座
 席のサロン席に陣取り、楽しさ、バス旅の仲間と談笑したり、
 東京より参加して、楽しさ、バス旅の仲間と談笑したり、
 など、案内したりの、楽しさ、バス旅の仲間と談笑したり、
 当を積み込んだり、楽しさ、バス旅の仲間と談笑したり、
 景色に、折、歓声、上、山、近、なり、錦秋の絵巻のよう、
 年の、浅間の吟火、折、恋、村、鎌原、観音堂に到着。天明三
 大勢の、犠牲者、観音堂へ、折、恋、村、鎌原、観音堂に到着。天明三
 助、か、つ、う、。脇、音、堂、へ、折、恋、村、鎌原、観音堂に到着。天明三
 た、と、う、。脇、音、堂、へ、折、恋、村、鎌原、観音堂に到着。天明三
 散、つ、う、。脇、音、堂、へ、折、恋、村、鎌原、観音堂に到着。天明三
 さ、を、現、活、品、展、示、さ、れ、大、噴、火、の、土、石、流、に、逃、れ、た、九、十、三、人、の、命、が、
 況、を、再、現、し、た、ジ、オ、ラ、マ、に、そ、の、大、噴、火、の、土、石、流、に、逃、れ、た、九、十、三、人、の、命、が、
 脅、威、を、実、感、し、た、展、望、台、で、は、そ、の、大、噴、火、の、土、石、流、に、逃、れ、た、九、十、三、人、の、命、が、
 顔、前、に、大、き、く、せ、ま、り、展、望、台、で、は、そ、の、大、噴、火、の、土、石、流、に、逃、れ、た、九、十、三、人、の、命、が、
 豆、柿、が、た、く、に、実、り、展、望、台、で、は、そ、の、大、噴、火、の、土、石、流、に、逃、れ、た、九、十、三、人、の、命、が、
 館、の、入、口、に、は、実、り、展、望、台、で、は、そ、の、大、噴、火、の、土、石、流、に、逃、れ、た、九、十、三、人、の、命、が、
 つ、車、中、で、お、碑、が、建、つ、て、い、る、石、田、波、郷、の、一、景、が、印、象、的、な、こ、こ、恋、村、の、字、い、く
 沢、駅、舎、を、見、て、最、後、の、目、的、地、旧、倉、渕、村、の、東、善、寺、へ、と、向、か、う。
 栗、上、野、に、日、本、の、近、代、化、に、力、を、こ、め、た、父、と、称、さ、れ、る、小
 寺、で、あ、る、。住、職、の、話、を、聞、い、た、後、熊、の、鐘、を、鳴、ら、し、な、が
 ら、バ、ス、の、薄、暗、い、小、径、を、登、り、後、熊、の、鐘、を、鳴、ら、し、な、が
 ち、ま、で、し、ば、戻、り、作、に、耽、る、。新、前、橋、駅、前、に、着、き、何、と、か、投、句、を
 済、ま、し、あ、げ、る、。画、し、お、世、話、下、さ、つ、た、役、員、の、方、々、に、心、よ、り、感、謝



群馬県支部秋の吟行会参加者

俳人協会創立65周年記念 全国俳句大会・一般の部のご案内

▽募集

二句一組 未発表作品・所定の用紙
又はコピーしたものを使用 何組でも可
(注) 1月15日より俳人協会ホームページからダウンロードも可能で
俳人協会員以外の一般の方も投句・大会
出席出来ます

▽投句料

一組につき千円(小為替又は現金書留)

▽締切

令和8年4月15日(当日消印有効)

▽送付先

〒169-8521 東京都新宿区百人町3・
28・10俳人協会「全国俳句大会」係

電話 03・3367・6621

▽選者

井上弘美・今井聖・今瀬一博・
小川 軽舟・小澤實・榎未知子・角谷昌
子・加古宗也・片山由美子・岸本尚毅・
小島健・坂本宮尾・佐怒賀直美・白濱一
羊・鈴木しげを・染谷秀雄・高田正子・
中原道夫・西村和子・西山睦・野中亮介・
能村研三・福永法弘・藤田直子・藤本美
和子・松岡隆子・南うみを・三村純也・
村上喜代子・望月周・森田純一郎
▽大会

令和8年9月8日(火) 正午開場・午後
1時開会(入場無料)

有楽町朝日ホール 東京都千代田区有楽
町2・5・1

電話 03・3284・0131

有楽町マリオン11階(JR有楽町駅中央
口または銀座口・地下鉄銀座駅の1出口・

地下鉄有楽町駅D-7a・D-7b出口)

※社会状況により開催の有無、収容人数
等が変わることがあります。俳人協会に
お問い合わせて下さい

▽俳人協会創立65周年記念大会につき、
講演会を予定しております

▽賞

大会賞・秀逸賞・各選者の特選賞

☆大会終了後応募者に入選作品集をお送
りします。(お一人5冊まで)

☆応募作品の訂正・取消しには応じられ
ません

☆類句及び二重投句については、入選を
取消することがあります

☆入賞作品は、俳人協会ホームページに
掲載します

主催 公益社団法人 俳人協会
後援 朝日新聞社

四季の畔道

今年、昭和百年にあたる。そこで、中
村草田男の代表作「降る雪や明治は遠く
なりにけり」を真似て、「〇〇〇〇〇〇昭
和は遠くなりにけり」と遊んでみよう
と、考え、「〇〇〇〇〇〇」に入る「季語を
含む五」をさがすことに。季語を冬に限定
し、『第三版俳句歳時記冬の部 角川書店
編』を開き、目次を時候の「冬」から順
に、天文、地理、生活、と見ていく。つ
づいて、行事、動物、植物の最後の「冬
萌」までひと通り目をとおす。

草田男は、久しぶりに訪れた母校の小
学校の、校庭を眺めながらこの句を詠ん

だという。己の来し方をしみじみ思い起
すという、心の動きにふさわしい季語は
無いものかと、もう一度読み返す。「降
る雪や」が、偶然できたものか、練りに
練ったものかわからないが、この上五を
真似ることなど到底できないとの結論に
いたった。
(Y)

しだりお

昨年の「今年の漢字」は「熊」だった。
毎年応募しており、当てたのは2度目。
1つの漢字にいくつもの理由を挙げるケー
スが多いが、今回はそんな理屈抜きで
「熊」。対抗馬と目された「米」には、
米トラップの過激な言動や、米大リーグ
大谷の活躍、米価高騰などを並べての応
募があったようだ。13人が熊に殺された
とあっては、漢字は熊以外ないだろう▼
もし遭遇したらどうするか。「後ろを見
せずに後ずさりして距離をとれ」。テレ
ビでよく言われているが、熊に出くわし
たときに、そんな悠長なことができるだ
ろうか。撃退用のスプレーも売っている。
唐辛子の成分が入っていて、これが熊の
目などの粘膜を刺激するという。だが、
霧状の薬品を熊が浴びればいいが、風向
きによっては人間が浴びかねない▼鈴は
山へ入るときの必需品だった。「だった」
と書いたのは、効果に疑問符が付いたか
らである。コロナ前まではよく登山した。
そのスタイルは膝までの長い毛糸の靴下
に、膝下までのニッカーズボン。両ひざ
にゴム紐で鈴を括りつけ、もう1つを手
で持った。さらにリュックに4つ目を付

けたこともある。山小屋や休憩所など人
の多い場所ではうるさいので、膝の鈴は
ズボンの裾に仕舞った▼しかし、それで
も万全ではなかった。上州武尊(215
8m)を単独登山中、ブナ林の中で藪が
異様に揺れているのに気付いた。風はな
い。熊の臭いは「汗臭い」「発酵臭」
「甘い香り」などと表現されることがあ
るが、とにかく強烈な獣の臭いだった。
藪の揺れは熊だと直感。地団駄を踏んで
鈴を鳴らし、手の鈴も大きく振った。野
球場の応援席で見かけるウエーブのよう
に、藪の揺れは大きな波となって離れて
いった▼登山は諦めずに続けた。だが、
腰を下ろして休憩する気になれなかった。
気が付けばそれから2時間歩きつ放し。
平日だったこともあり、途中で別の登山
道と合流するまで、誰にも会わなかった。
本州と四国にいたのは月の輪熊。雑食だ
が人間を襲うことはないと言われてきた。
人を襲うのはばったりと鉢合わせした時
と、子熊を守る時だけと言われてきた。
しかし、最近では人里に来て農作物を荒ら
したり、人に危害を加えたりしている。
平気で住宅地に現れる「アーバン・ベア」
という言葉も定着した。鈴は人間の存在
を知らせて鉢合わせを防ぐものだが、今
は人間のいるところにやって来る。餌が
あるからだ▼「熊の出た話わるいけど愉
快」(宇田喜代子)。「熊を見し一度を
何度でも話す」(正木ゆう子)。熊の怖
さは実際にわかった人しか分からない
のだろう。伝聞ではどこかに誇張がある
ような気がしてしまう。

(M)